

(仮訳)

## プレス・リリース

2018年3月23日

### バーゼル銀行監督委員会は作業計画、現在の政策案件、合意された基準の実施及び強固な監督の推進に向けた取組みについて議論

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、金曜日（3月23日）、2018年3月15日から16日にかけてスイス・バーゼルで開催した会合における議論の概要を公表し、今後開催される会合毎に議事要旨を公表することを発表した。

バーゼル委議長でありスウェーデン中央銀行総裁でもあるステファン・イングベス氏は、「バーゼル委は、銀行の健全性規制の主要な国際基準設定主体としての自らの役割において、透明性と説明責任を果たすことにコミットしている」と述べた。

今回の3月会合において、バーゼル委は、2018年から2019年にかけての作業計画および優先的に取り組む事項について議論した。バーゼル委の作業計画における主要なテーマは、以下の4つである。

- （1）検討中の規制見直し案件の最終化及び限定的な範囲での新たな政策立案
- （2）金融危機後のバーゼル規制改革の完全、適時かつ整合的な実施
- （3）強固な監督の推進
- （4）金融危機後の規制改革の影響評価・モニタリング及び新たに台頭するリスクの評価

公表用を含む作業計画の改定案は、バーゼル委の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループに、了承を得るために提出される予定。

バーゼル委は、現在の政策案件を議論し、以下の点について合意した。

- 2016年1月に公表されたマーケット・リスクの枠組みの見直しを巡る限定的な修正を市中協議にかけることについて合意した。これらの修正に係る市中協議文書は、3月22日木曜日に公表された。バーゼル委メンバーは、マーケット・リスクの枠組みの見直しについて、2022年1月までに完全、適時かつ整合的に実施されるべきものである旨、改めて確認した。
- バーゼル委は、市中協議を踏まえ、グローバルなシステム上重要な銀行の選定枠組みの見直しについて合意した。見直し後の枠組みは近く公表される予定。

- 簡素で、透明性が高く、比較可能な短期証券化商品を特定する要件と、同要件を満たす商品の銀行の自己資本比率規制上の取扱いについて合意した。これを踏まえた基準はおって公表される予定。

バーゼル委は、規制改革の完全、適時かつ整合的な実施に向けた取組みの一環として、2017年12月に最終化されたバーゼル III を実施するために各法域において今後策定される規制案に関する予備的な審査を実施する手法について検討する方向で合意した。バーゼル委は、こうした予備的な審査が任意で行われることを前提に、これを実施する手法の策定を開始することで合意した。

また、バーゼル委は、強固な監督の推進に向けて継続中の取組みについて議論した。こうした取組みに関連して、バーゼル委は、監督上の早期介入実務を取りまとめた報告書の公表を了承した。

バーゼル委は、金融危機後の規制改革の影響評価・モニタリングに係る取組みに関し、規制裁定をもたらし得る銀行の取引や行動変化に係る直近の実態把握（ストックテイク）の結果に着目し、こうした取引を更に精査することについて合意した。バーゼル委は、定期的な課題の洗い出し作業の一環として、2018年第1四半期における金融市場のボラティリティが銀行システムに与えた影響や暗号資産（crypto-assets）がもたらす影響を含め、最近の市場及び監督上の動向について意見交換を行った。

次回バーゼル委員会合は2018年9月19日から20日にかけて開催される予定。